

# 省略語がもたらすコミュニケーションへの影響に関する一考察

津田 篤大

指導教員 土屋 哲

## 研究背景

現代において、省略語を使用した会話が多くなっている。しかし、省略語の使用により会話の内容が理解できないといったことも起きている。国語世論調査（2024）では、SNSの普及により省略語がこれからも増え続けることや十分に吟味されないまま使われる言葉が増えることが懸念されている。さらに、アルファベットの省略に関して、これを好ましい（文化庁「令和4年度 国語に関する世論調査報告書」）とするデータもある。

## 研究目的

本研究の目的は、普段の会話がどれだけ単純になっており、それによってどれだけの方が理解しているのか、はたまた理解できないで見出すことである。そして、今回の研究を経て、この言葉を省略することによって相手に伝わりやすくなり、この言葉は省略しない方が相手に伝わりやすいなどの分別をすることができ、コミュニケーションの向上へと繋ぐことを目指している。

## 研究方法

省略語を99語選定し、アンケート形式で学生に回答してもらおう。それぞれの省略語の正答率、誤答率、意味を知っている割合、使用率、アンケート回答者の属性（趣味など）も取り入れる。回答情報を集計し、分析、考察を行う。

## 分析結果

約50名の学生の回答を分析した結果、正答率の平均が38.1%、誤答率の平均が11.1%、意味を知っている割合の平均が48.5%であった。全体的に省略語を元の言葉に戻せる人は少ないと分かる。しかし、意味を知っている割合の平均は、正答率から10%程度上がっていることから、元の言葉に戻せなくてもその省略語の意味を理解している人がある程度いると推測される。さらに、文字の種類や品詞別で見ると、正答率に差があった。

## 考察・結論

分析結果から、省略語は正確に理解されているというよりも感覚的に理解され、共有されている言葉であると考えられる。さらに、省略語が省略語として認識されていない可能性も示唆される。これらから、省略語は、SNSや日常生活での会話の中で繰り返し使用されることによって、言葉の意味のみを理解していく表現であると結論づけられる。